

# 3.11 震災後のメッセージ 第二弾

東日本大震災を受けて、組織のトップが4月の入学式や入社式で新人に対して何を伝えようとしたのか、これは単に組織内だけでのメッセージではなく、同じ業界にいる会員にとっても復興への道を考える上で重要です。前号ではそのような震災後のメッセージを2部構成でお伝えしました。

突発的な事柄に対する突発的な企画であったため、タイミング的に学会誌の締め切り間際の依頼となってしまいました。そのため、前回掲載しきれなかった分を今月号で掲載いたします。

会誌編集委員会 中島秀之 奥乃 博

\*五十音順 \*本文は原文のまま掲載しております。

## NTT

### 2011年度入社式挨拶

2011年4月1日

日本電信電話株式会社

代表取締役社長 三浦 惺

おはようございます、社長の三浦です。皆さんの入社を心から歓迎します。

まず、今回の大震災についてお話ししたいと思います。

地震、津波、それに加えて原子力発電所の事故が重なり、本当に未曾有の大災害です。国難といってもいいでしょう。NTTとしても国民としてもこの国難を乗り切っていかなければならないと思っています。改めて、皆さんと一緒に、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災を受けられた方々に、謹んでお見舞い申し上げたいと思います。

NTTグループでも通信設備が被害を受け、サービスに大きな影響が出ました。震災直後から、グループ総力をあげて復旧作業に取り組んでおり、かなり回復してきました。一昨日に報道発表したように、4月末を目途に大半の通信ビルや基地局の復旧を目指しておりますが、原子力発電関連の地域も含めてまだまだ色々な困難が待っていると思っており、是非ともグループ総力を挙げて乗り切ることによって「通信はNTT」という信頼を勝ち取っていききたいと思います。

さて、せっかくの機会ですから、社会人として新たな一歩を踏み出した皆さんの門出にあたり、三つ話をします。

最初に、社会人として心がけて欲しいことです。

学生から社会人になるということは、人生の大きな転機です。これまで多くの人に育てられ、守られてきたわけですが、これからは精神的にも経済的にも「自立」

するとともに、今まで以上に社会のルールや約束を守ることが求められます。

そして、皆さんが責任ある行動を取ることによって、周りの人に信頼され、期待され、その結果として、仕事を任せられるようになるのです。良き研究者である前に、まず良き社会人であって欲しいと思います。

また、今まで経験したことのないような困難な問題に直面することもあるでしょう。その時の解決の糸口は、皆さんを支えている「家族」「友人」「先輩」などとのコミュニケーションにあると思います。いろいろな人に相談し、意見を交わしながら、最終的には、自分で考え、自分で判断し、自分で行動することによって問題を克服し、成長して欲しいと思います。

次に、NTTグループを取り巻く経営環境と、研究所の役割について話をします。

ICTの世界では、「スマートフォン」と「クラウド」がキーワードであり、これらを軸にグローバル規模でパラダイムシフトが起こっています。スマートフォンやタブレット端末がどんどん進化し、Googleやアップルのように、端末とコンテンツ・アプリケーションをセットで提供する新しいビジネスモデルが次々と登場しておりますし、北アフリカの政情不安・民主化にあたってフェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディアが大きな力を発揮したといわれています。またモバイルと固定の融合をはじめ、あらゆる分野でサービスの融合がますます進んできました。さらには、クラウドコンピューティングに代表される「所有」から「利用」への流れも加速しています。

一方、日本は、少子高齢化が進み、医療・介護、教育、環境・エネルギーなど、様々な問題が山積した「課題先進国」と言われています。今や日本の経済成長の3分の1を占めているICT産業は、更なる経済成長を

支えることはもちろん、社会的課題の解決にも貢献できるし、またしなければならぬと考えています。今回の震災からも教訓を得て、今後のネットワーク構築や防災ソリューションなどといったサービス創造に活かすことも必要です。様々な分野でICTの利活用を進め、ソーシャルイノベーションの成功事例を早く構築し、その成果をグローバル展開することで、国際社会にも貢献できると考えています。

NTTグループは、従来の「ネットワークキャリア」にとどまらず、固定・移動ともに世界最先端のブロードバンド環境をベースに「サービス創造グループ」へ変革する、という成長戦略を掲げて、取り組んでいます。M & Aも進め、グローバル展開を行っており、海外の現地法人の社員数は4万人になってきました。

「サービス創造グループ」の取り組みにあたっては、研究所が中心となって、世界をリードする技術やイノベーションを創出し、その成果を新しいビジネスに結びつけていくことが必要です。同時に、事業やサービスの動向、技術のトレンドなどを汲み取って、研究開発をしていかなければなりません。

最後に、皆さんに研究者として期待することについて話をします。

「企業は人なり」と言いますが、研究所においては、特に人は大切です。皆さんには、一日も早くプロの研究者として活躍してもらいたいと思います。

そのためには、自分の専門分野を早く確立する、これがまず基本です。と同時に、何事にも知的好奇心を持ち、知識や経験の幅を広げることも大切です。自分の専門にとどまらず、周りの人の仕事にも関心を持ってください。社内外はもちろん、国内外を問わず、オープンなコミュニケーションが重要です。そもそも研究開発の分野に国境はありませんが、今まで以上にアンテナを高くして、世界中の情報や技術を迅速に取り込むなど、柔軟な発想とグローバルな感覚を持つことが新たな発見や自分の仕事のヒントになるでしょうし、イノベーションを生む力にもなっていくのだと思います。

今、私たちNTTは、皆さんの新しい力に期待しています。時代を切り拓いていくという使命感と誇りをもって、これからの業務に取り組んでもらいたいと思います。どうか、社会人として、NTT社員として大きく飛躍してください。

以上、皆さんを歓迎する挨拶とします。おめでとうございます。

## 株式会社NTT データ

### 2011年度入社式 社長挨拶

～NTTデータグループの社会的使命を支える「3つの力」～

2011年4月1日

株式会社NTT データ

代表取締役社長 山下 徹

はじめに、このたびの東北地方太平洋沖地震によって亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

また、今日ここにいる新入社員のみなさんの中にもご自身をはじめご家族やご親戚、ご友人が被災された方がいらっしゃると思います。その方々にあらためてお見舞いを申し上げると共に、このような厳しい状況の中、新入社員のみなさんが全員、こうして入社式に集まって頂いたことに深く感謝し、NTTデータグループを代表してみなさんを心から歓迎いたします。

さて、NTTデータグループはご存じのように国内において、国や自治体の行政情報システム、決済ネットワーク等の各種金融情報システム、あるいは地域経済の中核企業の情報システム等社会のインフラとなるシステムを多数手がけております。このため、このたびの東北地方太平洋沖地震の発生にあっても、地震発生直後から多くの社員が昼夜を問わず復旧作業に従事し被災システムの復旧やサービスの維持に全力を挙げて取り組んできました。その結果おかげさまで、いまだ十分ではありませんが、かなりのシステムが復旧し被災地の皆様のライフライン、生活インフラの確保に貢献をしています。また、わが社が開発をした自治体の防災情報システムや広域災害救急医療情報システムなども被災地の救援活動に大きな貢献をしています。このことについて、我々は誇りに思うとともに、あらためて、NTTデータグループの社会的使命とその重要性を再認識したところです。

では、このような社会的使命を果たすには、どのような能力が企業には必要でしょうか、安定した経営基盤や組織力あるいは資金力といったものが勿論必要となりますが、もっとも重要なものは社員ひとりひとりの力です。そこで、今日からNTTデータグループの一員となる皆さんに、私たちに求められている「3つの力」について、お話ししたいと思います。

一つめはITの知識をはじめとした、「専門能力」です。医療関係者や警察・消防をはじめ、いま被災地で懸命に活動をしている人たちは、皆それぞれに高度な

「専門能力」を持っています。国民の生活を支えるという使命を持った私たちもまた決して例外ではありません。NTT データグループが社会に貢献するということは、社員ひとりひとりが自ら持つ専門能力を社会のために発揮するということと言えます。NTT データグループの一員として求められている「専門能力」をしっかりとまずは身につけて下さい。

しかしながら、専門能力を“持っているだけ”では社会のために貢献することは出来ません。そこで、二つめに求められている力は、「人間力」です。人間力とは人間に対する理解、思いやりをもって世の中をより良くしていこうという高い志を持つことが出来る力です。

自分の持つ専門能力を誰に対してどのように使うか、それによって何がもたらされるか、そのことをしっかりと考え、行動できるよう、是非「人間力」を磨いて下さい。

そして最後に、「元気力（バイタリティー）」です。どんな苦境にも屈せず、前向きに進んでいく「元気力」を、常に持ち続けて頂きたいのです。これは若い皆さんに一番期待している部分でもありますし、しかも今すぐに発揮できる力でもあります。そして、みなさんばかりでなく、日本をこの苦境から立ち直らせるために、いま日本人全員に求められている力かもしれません。是非皆さんの若い力で、NTT データグループを、そして日本を元気にしていって頂きたいと思います。

また、NTT データグループは日本を代表する IT サービス企業であると同時に、「グローバル TOP5」を目指すグローバル IT 企業でもあります。いまや、5万人いる NTT データグループ社員のうち、2万人以上、約 40% が海外の方です。世界中にいる私たちの仲間とともに手をたずさえ、切磋琢磨しながらグループ全体で成長を目指しているのが、NTT データグループです。

そういった意味で、皆さんがこれから活躍する場は日本に限らずグローバルです。そしてグローバルで求められるものもやはり先ほどお話した「専門能力」「人間力」「元気力」の 3 つの力なのです。話す言葉や文化が異なっても、世界中どこにいても求められるものは同じなのです。

NTT データグループに課せられた使命を果たし、そしてグローバル IT 企業として NTT データグループを羽ばたかせていくのは、ここにいる皆さんひとりひとりでです。

「3 つの力」を源に、みなさんと NTT データグループが大きく成長していくことを期待してやみません。

本日は入社おめでとうございました。

## 株式会社 NTT ドコモ 2011 年度入社式社長挨拶

2011 年 4 月 1 日  
株式会社 NTT ドコモ  
代表取締役社長 山田隆持

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

本日は、全国のドコモグループから 344 名の新入社員の皆さんに集まっています。このように多くの夢と希望を持った皆さんをドコモに迎えることができ、大変うれしいことです。皆さんを心より歓迎いたします。

さて、フレッシュな皆さんに、まず、ドコモの社会的な使命についてお話をしたいと思います。3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」では、マグニチュード 9.0 という国内史上最大級の地震で、多くの方々が甚大な被害にあわれました。被災した方々には心からのお見舞いを申し上げます。

この災害で、ドコモの通信網も大きな影響を受け、サービスが中断するエリアが多数発生し、お客様にご不便をおかけする事態となりました。地震発生後すぐに災害対策本部を立ち上げ、最高レベルの非常体制を取りました。私自身も、地震の翌日と先週の 2 回宮城県に赴きました。想像を超える事態であり、復旧に向けては最大限の努力をしなければならないと決意しました。

今回のような大災害の発生時には、携帯電話が使えないということは被災地のお客様にとって大きな問題です。ご家族や知人の安否の確認や生活に必要な情報の収集など、極めて重要なことを知る手段だからです。

携帯電話は生活に不可欠なインフラです。我々がお客様に提供しているものは「移動通信サービス」です。しかし、同時に「安心・安全」を提供しているということでもあります。今、私たちが担っている社会的な使命の重さを改めて強く認識させられます。社会のインフラとして通信を回復させることは、私たちがやるべき最優先のことなのです。

災害対策本部では、毎日休日返上で合同対策会議を開催し、各班からの設備の障害状況・復旧状況の報告をもとに、復旧や被災地支援のための対策の検討・決定をしています。

具体的な取り組みとして、携帯電話が使えなくなっている地域を対象に、移動基地局車 30 台を全国から被

災地に集めて通信の確保を図っています。また、被災者の通信確保のため、衛星携帯電話 870 台、携帯電話 1400 台、タブレット端末 180 台を行政機関に貸し出したり避難所に設置するとともに、携帯電話を無料で充電いただけるコーナーを 210 箇所設置しています。

一方、お客様への情報提供ということで、被災地で携帯電話利用可能なエリア、今後の復旧予定、無料充電サービスの提供場所やドコモショップの営業状況を地図上で詳細に確認できる「復旧エリアマップ」を公開しています。

これから、設備の復旧活動は緊急復旧から本格復旧のフェーズに入っていきます。復旧活動にはグループ会社や協力会社を含め多くの方にも協力いただき、一致協力して取り組んでいます。

今回、新入社員の皆さんにも、現地に赴いて被災地の支援をしていただくことを考えています。無料充電サービス等のお客様対応や被災地の設置端末の確認・保守などをやっていただく予定です。その趣旨は私たちの会社にはこうした社会的な使命があるということ、肝に銘じていただきたいということです。自分達の仕事の意味と責任をよく考えてしっかりやっていただきたいと思ひます。

次に、私たちの事業の今後についてお話したいと思います。私たちの事業を取り巻く環境は、スマートフォンの普及・拡大、利用されるデータトラフィック量の急増など大きく変化しています。しかし、どのような変化があろうとも変わらないのは、「私たちのサービスはお客様に満足していただかないと成り立たない」ということです。

私は社長になった時に「変革とチャレンジ」という言葉を経営改革のキーワードにしました。「変革」は事業の原点に立ち返って、サービス・端末・ネットワーク等あらゆる点においてお客様視点で改革を実行するという事です。現場が原点であるという現場原点主義を徹底し、ドコモグループが一体となってお客様満足度を高め、ドコモブランドを高めていくために「ONE docomo」を合言葉に改革を進めています。ドコモとグループ会社、ドコモショップなどパートナー企業の皆さんも含めて「ONE docomo」で結束して取り組んだおかげで、JD パワーという調査会社のお客様満足度調査で法人部門・コンシューマー部門いずれも 1 位となりました。取り組みの成果は着実に出ております。

次に「変革とチャレンジ」の「チャレンジ」についてです。これは、携帯電話の持つ可能性をさらに追求し、新たな価値創造に向けてさまざまなチャレンジをして

いくことです。

携帯電話には 3 つの特徴があります。

- ① 24 時間 365 日お客様の手元にあるということ
- ② 個々のお客様に携帯電話が紐づいていること
- ③ GPS などどこにいるか分かること

を生かしてイノベーションを起こす事で、さらなる成長が期待できると考えています。

21 世紀はさまざまなものが融合するコンバージェンスの時代です。移動と固定、通信と放送、情報家電等との融合が生まれるでしょう。電子書籍サービスやドライブネットなど新しい取り組みも始まっています。

また、モバイルによって金融・決済、健康・医療、環境・エコロジー等の分野で社会の課題について貢献できると考えています。「ソーシャルサポートサービス」と呼んでいます。こうした新事業を発展・融合させ、収益基盤の拡大を図っていきたくと考えています。

そして、モバイルは、さまざまなグローバルなプレーヤーが現れています。世界を見据えてチャレンジしていかなければなりません。

ここで、私たちの当面の課題として 3 つあげたいと思います。

一つは、モバイルのデータ通信利用を促進し、パケット ARPU が音声 ARPU を逆転し、総合 ARPU を上昇基調に反転させることです。そして、データ通信量の増大を支えるのが高速かつコストパフォーマンスの良いネットワークです。ドコモは、世界の先頭集団として国内の他社に先駆け昨年 12 月から、次世代通信方式 Xi (クロッシイ) のサービスを開始しました。今後は Xi をトラフィックの高いところから順次広げていきます。

二つ目は、スマートフォンの強化です。昨年度は「スマートフォン元年」と位置づけ、Xperia や GALAXY など優れたスマートフォンを発売しました。当初の予想以上に、スマートフォンは急速にお客様に浸透しています。これから、スマートフォンは本格普及期に入ります。端末やサービスもスマートフォンに大きく舵を切っていきます。従来の i モードの良いところを順次スマートフォンに取り込んで機能を充実していきます。

三つ目は、ドコモの 2020 年ビジョン「HEART」の実現です。

国・地域・世代を超えた豊かな社会への貢献、ネットワークの進化、サービスの融合による産業の発展、つながりによる喜びの創出、安心安全で心地よい暮らしの支援を実現していくことです。

ドコモはこれまでの 10 年はモバイルの可能性を追求してきました。これからの 10 年はモバイルを核とする

「総合サービス企業」としてこれからも挑戦していきます。

イノベーションを起こすために、皆さんの若い力、感性には大いに期待しています。

最後に、本日より皆さんは、社会人です。社会人としての責任を自覚して行動してください。自立した個人として自我を確立し個性を発揮してください。そして同時に人を思いやる心もしっかりと持っていていただきたいと思います。被災地での復旧支援活動は、きっと皆さんにとって社会人として自分がどうあるべきか考える機会になると思います。しっかり働き、しっかり考えていただきたいと思います。そして明るく活力を持って取り組んでください。ドコモは今、変わろうとしています。「変化」を肌で感じ、一緒に進んで行ってほしいと思います。そして、一人ひとりが「変革」を牽引するリーダーになり、会社の夢、自分の夢に向かってチャレンジしてほしいと思っています。

一緒にドコモの将来を作り上げて行きましょう。

皆様方の今後の活躍を期待して歓迎の挨拶とさせていただきます。

---

### 沖電気工業株式会社 2011 年度入社式 社長挨拶(抜粋)

---

2011 年 4 月 1 日  
沖電気工業株式会社  
代表取締役 川崎秀一

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

3月に発生した東日本大震災により、多くの方の命が失われ、広い地域の方々の生活に大きな被害や影響をあたえる事となりました。お亡くなりになられた方々に深い哀悼の意をささげるとともに、被災された地域の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

OKIは、ライフラインを支えるシステムなどの復旧に、グループ全社をあげて24時間体制で取り組んでいます。世の中に無くてはならないものをしっかり支えるという仕事の重大性を、改めて感じています。本格的な復旧にはまだかなりの時間が必要と思われませんが、お客様がお困りのときこそしっかりとした体制でサポートし、被災地および被害を受けた方の復興のお役に少しでも立ちたいと考えています。

世界では、これまで我々が経験したことのない大きな変化が、ものすごいスピードで起こっています。先行き不透明な中、OKIグループは、昨年発表した中期経営計画を着実に推進することが使命となっています。すなわ

ち、「安定した収益を創出することが可能な事業構造を構築し、今後の事業成長を支える堅固な経営基盤を完成させる」ことです。どのような状況が起こったとしても、これまでの経験にとらわれることなく柔軟に対応し、企業経営・事業運営を継続していかなければなりません。

OKIグループは今年130周年をむかえます。長い歴史の中で、多くの時代の変化を糧に成長してきました。変化の時代だからこそ、たくさんのチャンスがあります。若い皆さんには、高い目標を持って、積極的に、前向きに、臆することなく、「進取の精神」をもって、果敢にチャレンジしてほしいと思います。一人ひとりが、この難局に立ち向かっていくという強い気持ちを持ち、世界一流を志して、皆さんの感性とエネルギーを思い切りぶつけてください。その力が、必ずやお客様とOKIグループの輝かしい明日の原動力になると信じています。

---

### ソニー株式会社 2011 年度入社式スピーチ(要旨)

---

2011 年 4 月 1 日  
ソニー株式会社  
取締役 代表執行役会長 兼 社長 CEO  
ハワード・ストリンガー

入社おめでとうございます。本日の入社式は新入社員の皆さんにとってだけでなく、ソニー全体、或いは日本にとって、より強靱に生まれ変わるための象徴的な一日として、大きな意味を持ちます。東北地方太平洋沖地震においては、世界中の何万もの社員が“ソニー・ユナイテッド”の精神で被災地域の社員に寄付などのサポートをし、一丸となって被害を乗り越えようとしています。ソニーはこれまで、このような規模の自然災害を経験したことがありません。よって再生への道には決まったやり方などはなく、皆さんの豊かな創造力や協調性、勤勉さ、そして決断力が試されるのです。

日本もソニーも分岐点を迎えている中で、皆さんは従来とは違うやり方を試し、次の歴史を刻んでゆく大きな機会を与えられています。製品やコンテンツ、サービスを通して、ソニーが世界中のお客様に楽しんでいただけるかは皆さん自身の力にかかっています。これからソニーだけでなく、皆さん自身の未来、ひいては日本の未来を切り拓いてください。